

平成 28 年 3 月 25 日

公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル
理事長 砂田 向老

要 望 書

米国病院船USNSマーシー沖縄寄港2018年の実現について

「海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟」による、菅義偉官房長官、島尻安伊子内閣府特命担当大臣、中谷元防衛大臣への「米国病院船 USNS マーシー沖縄寄港 2016 年の実現について」との申し入れ（平成 28 年 2 月 19 日）は、大いなる展望を開きました。そこで、国民共有の認識に立ち、米国病院船 USNS マーシーの沖縄寄港を 2018 年に定め、下記プロジェクトの実現を要望します。特に、アジア太平洋地域において漸次進行する周辺環境の変化と、米国病院船 USNS マーシーの役割とについて理解をいざなうとともに、地域の緊張緩和と安定のために、米国が進める高次な人道支援・災害救援（以後略称 HADR）等に鑑み、これまで国内災害のみの狭域的視点で検討してきた思考を改め、災害医療の未来を考える好機として提案する。

記

1. 米国病院船USNSマーシー沖縄寄港2018年の実現を要望します。
合わせて、本件の実現に関係する省（大臣）及び米国と実務者協議を開始すること。
2. 2018年のマーシー沖縄寄港実現に合わせ、災害医療の未来を考える「仮称：アジア太平洋地域病院船医療国際会議in沖縄2018」（第1回病院船保有国参加災害医療サミット）沖縄開催を要望する。
3. 2016年パシフィック・パートナーシップに巡行の米国病院船USNSマーシーの寄ベトナム（7月中旬～下旬）寄港に合わせ、当法人より民間ボランティアの視察参加をお願いするとともに、受け入れ実現の便宜供与を要望する。
4. 上記プロジェクトを実現するため、2016年をプロジェクト開始年と定め、関係機関及び関係者による工程作成を推進し、プロジェクトチーム編成を図ること（別紙工程表に示す）。

以上